

# 西諸県地域の普及活動

令和5年9月  
西諸県農林振興局  
(西諸県農業改良普及センター)

## I 管内農業・農村の主な動き

### 1) 子牛郡品評会が開催

11日、小林地域家畜市場において、西諸県郡市畜連主催による令和5年9月期子牛郡品評会が開催されました。

品評会には、雌子牛37頭が出品され、審査の結果、優等賞に7頭、壺等賞に17頭、式等賞に13頭が選ばれました。なお、優等賞首席は小林市のK氏出品の「あおい」号(二刀流-勝美利-美穂国)、2席は小林市のY氏出品の「やましん816」号(耕富士-安福久-忠富士)、3席は小林市野尻町の(株)H畜産出品の「たつこ」号(富久竜-美穂国-忠富士)が受賞されました。

受賞牛は、腰・尻の幅に富み、体上線・体下線の平直さ、輪郭鮮明で体積感があり、種牛性に富むとの講評でした。



【優等賞首席 あおい号】

### 2) 普通期水稻成熟期調査・坪刈りの実施

13・14日、西諸管内の成熟期調査を実施しました。稈長は平年より高く、穂長は平年並みでしたが、1穂粒数は平年よりやや少なく、収量は平年並み～やや少ないと見込んでいます。

また、今年は紋枯病の多発生が見られました。紋枯病は、被害株の稲わらや雑草が感染源となり、来作に影響を与えるので、多肥・密植を避けたり、代かき時の浮遊残さの除去を行う等の作業を、今後呼びかけていく予定です。

今後は、9月25日～10月上旬にかけて坪刈りを行い、かけ干し乾燥後に技術員会で収量調査を行っていきます。

### 3) JAこばやしニラ生産部会の設立総会

11日、JAこばやし本所において、JAこばやしニラ部会とJA高原ニラ部会の合併のための設立総会が開催されました。

ニラ部会は、生産者の高齢化に伴い、それぞれの部会の部会員が減少傾向にあったため、合併し「JAこばやしニラ生産部会」として新たにスタートすることとなりました。

普及センターは、今後も引き続きJAと連携して、技術や経営指導などの生産者へのサポートを行い、産地を守っていきます。



【設立総会の様子】

## Ⅱ 主な普及指導活動等の取組

### 1 プロジェクト(総合、専門)に関する普及活動 (持続可能な農業生産の実現へ向けたアグリプレーヤーの確保・育成)

#### 1) 第2回、第3回アグリ★ステップアップセミナーを開催

8日及び20日に、農業者の経営管理能力向上を目的とした研修会を行いました。

8日の第2回セミナーは、ファイナンシャルプランナーを講師に迎え、ライフプラン作成の重要性等について研修しました。ライフプランを作ることで、目標達成に向けてどういう手段を取るのか、いくら収入があれば良いのを決めて自分の計画をしっかりと持つことが大切である等の助言がされました。

また、20日の第3回セミナーは、普及センター職員による、鳥獣害対策、経営管理に関する講義を行いました。参加者は意欲的な姿勢で研修に臨んでおり、複数の質問や意見が出され、研修内容で学習したことを実践してみたいとの声がありました。

農業者が経営者意識を持って農業経営が行えるよう来年度も研修会を計画し、支援していきます。



【第2回 ライフプランの研修】



【第3回 鳥獣害対策の研修】

#### 2) 就農相談会を実施

13日、普及センターで、小林市での就農希望者1名(肉用牛繁殖)、高原町での就農希望者1名(肉用牛繁殖)、えびの市での就農希望者1名(露地野菜、施設野菜)の独立自営就農の相談に対応しました。いずれの相談者も法人に勤務しており、関係機関からは、認定新規就農者や認定農業者の制度、活用できる資金などについて情報提供及び助言を行いました。

相談の結果、高原町の就農希望者は認定農業者、えびの市の就農希望者は認定新規就農者の認定に向けて検討し行く予定です。

25日、普及センターで、きりしまアグリトレーニングセンター研修生1名の相談に対応しました。ハウスや農地、農業機械などを地域の農業者から承継する予定で、今後は、認定新規就農者の認定に向けて、就農計画作成のために、承継する資材類や不足するものの整理、価格の確認などを行うよう助言しました。

今後も、関係機関と連携して就農に向けた支援を実施していきます。

(内訳 小林市：肉用牛繁殖1名、施設きゅうり1名 高原町：肉用牛繁殖1名、えびの市：露地野菜及び施設野菜1名)

#### 3) 農業次世代人材投資事業活用者の就農状況等の確認

28日、普及センターで、果樹(栗、ぶどう)及び水稲経営の事業活用者の就農状況確認を面談により実施しました。

栗は、昨年台風の影響で、園地の一部を改植したため栗の売上げは少ないものの、主力品目のぶどう(シャインマスカットなど)の生産・販売は順調で、今後も売上げが伸ばせるよう努力していくとのことでした。また、現在園地がある小林市内から事務所がある須木に園地を移す計画があり、関係機関と連携して随時支援していく予定です。

## (未来に繋ぐ“持続的な次世代型水田農業”の実現)

### 1) 水田ワーキンググループえびの班の協議

6日に水田ワーキンググループ（以下WG）のえびの班において、水田営農地図作成に向けた打ち合わせを行いました。これまでにリストアップした大規模生産者及び法人24名に対して、栽培面積の現状や今後の意向に関する聞き取り内容と、聞き取りの際に利用する地図の確認、関係機関での分担等を話し合いました。

9月中を目処にそれぞれ聞き取りを行い、営農地図作成を進め、地域の課題把握を関係機関と行っていきます。

### 2) 小麦の生産振興に係る検討会を開催

8日、えびの市、JAえびの市、普及センターで、水田裏作の小麦の生産振興について検討しました。収穫後の乾燥調整については、乾燥時に米と混ざる恐れがあり、混米すると米の品質に影響することや、6月の農繁期と作業が重なることから受け手がいない厳しい状況であると考えられました。加えて、管内に製粉業者もおらず、県外に委託することで高い製粉代にさらに運賃も掛かることから、非常に収益性が低くなると判断されます。

地元産小麦への期待の声も聞かれる中、現状としては、取り巻く環境はえびの市では非常に厳しいことから、今後は小林市で小麦生産拡大を志向する農業者を核として、小麦生産を検討していきます。

## (にしもろの畑地を生かした収益性の高い加工・業務用野菜産地の確立)

### 1) 加工用ほうれんそうの栽培講習会

1日、JAこばやし西支所及び小林集送センターで、加工用ほうれんそうの栽培講習会が行われました。

普及センターからは、時期別の管理のポイントや、前年度に大きな被害をもたらした黄化症状及び、一昨年度に被害があったべと病対策について説明を行いました。

9月下旬から、は種が本格化していきます。生理障害や病害虫の対策を適期に行うことで、今作でも良質なほうれんそうを安定生産できるように支援していきます。



【管理のポイントなどを説明】

## (スマート生産基盤の確立による収益性の高い果菜類産地の育成)

### 1) いちご団地講習会

1日、えびの市のいちご団地において、若手生産者を対象とした講習会を開催しました。

講習会では、普及センターから病害虫防除や肥培管理などについて説明しました。生産者からは、肥料の使い方等について質問があり、実際に肥料袋を見ながら研修を行いました。

いちご団地は若手の生産者が多いため、今後も定期的に講習会を実施し、技術力の向上を図っていきます。



【いちご団地講習会の様子】

## (魅力ある西諸果樹産地の維持・発展)

### 1) なしのジョイント仕立て 果実調査 (あきづき)

15日、小林市なし農家の園地で実施しているジョイント仕立てで栽培した果実の調査を行いました。

ジョイント栽培は省力化と早期成園化が図られますが、連年安定生産するための側枝配置方法や枝の更新時期などが明らかにされていないため、毎年、果実品質を調査しています。

今後はデータを取りまとめ、関係機関と検討を行います。



【ジョイント区 (上) と慣行区 (下) の果実】

### 2) クイーンニーナ着色向上試験 果実調査

12日、小林市ぶどう農家の園地で実施しているクイーンニーナの着色向上試験での果実調査を行いました。

クイーンニーナは光を当てることにより着色が向上するため、透明袋を活用したところ、通常の白袋より着色が向上しました。しかし、日焼けが多発したため、傘かけが必須であることが明らかになりました。

今後、クイーンニーナが、西諸県地区の主要品種となるよう着色不良等の課題解決に向けてデータを取りまとめ、関係機関と検討を行います。



【クイーンニーナ調査】

### 3) 小林市果樹振興協議会 梨品評会

26日、普及センターで、小林市果振協梨品評会が開催され、梨2部門(新興、新高)にそれぞれ生産者6名が出品し、懸命に育てた果実の出来映えを競いました。果実は県や市職員が務める審査員が色や粒の大きさ、味などを評価しました。

新型コロナにより4年ぶりの開催となりましたが、生産者のモチベーションアップにつながったようです。今後も関係機関と連携し、梨生産振興に取り組んでいきます。



【梨の審査をする関係者】

## 1) JAこばやしマンゴー部会定期総会

14日、ゆ〜ぱるのじりで、JAこばやしマンゴー部会定期総会が開催され、部会員約40名、関係機関約20名が参加しました。新型コロナウイルス発生以来、会食を含む総会は4年ぶりの開催となり、意見交換が活発に行われました。

今年の販売状況については、昨年と比べ販売金額はやや減少しましたが、事故率が低く、数量は過去最高に近い数値を記録しました。また、普及センターからは、今後作成予定の園地台帳での聞き取り協力依頼と炭そ・軸腐病対策等のアンケートを実施しました。

今後は品質向上とネット販売の増加を目指して引き続き支援を行います。



【マンゴー部会総会】

## (西諸県地域の特色を活かした花き産地振興)

### 1) ラナンキュラス巡回支援

今月から随時、西諸県地域のラナンキュラス生産者10名のほ場の巡回及び支援を行っています。先月の講習会では、冷蔵から定植までの技術説明をしたため、今月からは実施調査も含めて巡回しています。

生産者毎により細かい作業は異なりますが、それぞれのほ場にあった適切な管理を行っていました。

10月上旬から、順次定植が開始されますので、特に、定植後のかん水や植え方などに留意して活着を促進し、初期生育が良好となるよう支援していきます。



【ラナンキュラス個別支援】

## 2 プロジェクト(総合、専門)以外の普及活動

### 1) 畑かん散水器具実演会の開催

1日に、畑かん散水器具の実演会を、小林市役所、西諸土地改良区、散水器具メーカーの協力のもと、小林市細野(細野第1地区)で開催しました。

実演会では、関係機関から畑かん事業の概要や散水器具導入等に関する説明が行われ、その後、散水器具メーカーによる散水器具の実演が行われました。

参加者された生産者の反応は良好で、散水器具導入に繋がるものとなりました。



【畑かん散水器具の実演】

## 2) 営農振興協議会の重点展示ほ調査（ピーマン）

6日、小林市野尻町に設置している展示ほにおいて、JA、総合農業試験場の研究員とともに調査を行いました。この展示ほでは、ピーマンのネコブセンチュウ抵抗性台木である「台ひなた」と「タッグマッチ」の有用性を調査しています。

今回の調査では、地上部や根の生育状況の確認、生産者への収量等の聞き取りを行いました。

JAや研究員とともに現場を見ながら、活発な意見交換を行うことで、生育状況を的確に捉え、来作での取組などを検討することができました。



【有効性確認のための生育調査】

## 3) 西諸県地区果樹技術員会第4回定例会及び梨ぶどう食味調査

7日、普及センターにて技術員会の定例会を開催し、関係機関11名が出席しました。会議では管内果樹の生育状況や台風被害の情報提供などを行い、支援の仕方について再確認を行いました。また、なし1種（豊水）、ぶどう3品種（ピオーネ・クイーンニーナ・シャインマスカット）の食味調査を行い、管内果樹の理解を深めました。今後も関係機関と連携し、地域の課題に取り組んでいきます。



【食味を調査する技術員たち】

## 4) 西諸県地区若手花き生産者勉強会（リモート）

14日、普及センターにて、西諸県管内の若手花き生産者3名と関係機関2名でリモートによる勉強会を実施しました。勉強会の内容は、外部講師による「県内の優良企業の先進的な取組と雇用体制の構築」についての講義がありました。また、普及センターから、土壌の成分とその働きについて説明しました。

先進的な取組については、参加した生産者も大いに興味があり、勉強会後は、各生産者の経営状況や考え方など、様々な内容での活発な意見交換となりました。

参加メンバーは、積極的に活動する若手の生産者であり、今後の西諸県地域の花き生産を支えていく方々ですので、今後も引き続き一緒に勉強しながら支援を行っていきます。



【リモートによる若手勉強会】

## 5) 西諸県地区花き技術員会第4回定例会の開催

8日、小林総合庁舎で、室内検討を実施し、関係機関10名が出席しました。定例の管内の生育概況を各JA担当者から情報共有があった後、普及センターから管外視察やキクの生産状況などについて説明しました。

今後も引き続き、現地視察を交えながら関係機関との連携を行い課題に取り組んでいきます。



【西諸県地区花き技術員会定例会】

## 6) 総合農業試験場花き部による現地調査

6日、宮崎市の総合農業試験場花き部の研究員が、現地の状況確認と今後の課題の検討を行うために、管内のキク生産者2名のは場を訪問しました。

訪問した2名は、管内でも比較的大規模に栽培している若手生産者で、今後の産地維持発展させていくための意見交換が活発に行われました。

今後も引き、続き試験場花き部と連携して、キクの情報共有を図り、西諸県地区のキク生産を支援していきます。



【研究員と生産者との意見交換】

## 7) 重陽の節句と敬老の日に合わせてキクのアレンジメント

5日、西諸県地区花き振興会の取組として、えびの市管内で栽培されたキクのアレンジメントフラワーを、小林市の花屋に作っていただきました。

9月9日は「重陽の節句」、9月19日は「敬老の日」ということで、長寿を願ったキクを用いたアレンジメントは、各市町の最高齢者へ贈呈されました。その一環として、各市町、各JA、NOSAI、振興局、普及センターにキクのアレンジメントが展示されています。

どれも、素敵なデザインのアレンジメントです。



【ピンクに染色したキクでのアレンジ】

## 8) 荒茶求評会の開催

12日、普及センターで、管内茶生産者7名及び関係機関12名の参加のもと、茶の生産技術や加工技術の向上を目的とした荒茶求評会を開催しました。

始めに、生産者から提出された荒茶サンプルを、評価員（茶業支場、宮崎経済連）が、外観や味などの評価し、その後、評価員から評価結果や今後の改善点等について講評が行いました。

今後も引き続き、関係機関と連携して、茶の品質向上に向けた支援を行っていきます。



【外観を審査をしている評価員】